

放送話者を目指す学生のキャリア支援の現状と課題 Current status and issues of career support for students aiming to become broadcast speakers

磯野 正典¹, 山田 英寿²

Masafumi ISONO and Hidetoshi YAMADA

¹ 金城学院大学 Kinjo Gakuin University

² 北海道文化放送 Hotukaido Cultural Broadcasting Co.,Ltd

要旨・・・放送話者を目指す学生数は多く競争率も極めて高い。しかし、就職活動や準備活動に関する指導や教育、カリキュラムに関する基準は存在せず、大学に於ける就職準備講座は外部機関や講師に委託している事が多い。また、放送局のインターンシップやアナウンス講習会について詳しい内容も開示されていない。本研究ではこれらの状況を学生のキャリア支援と大学教育の在り方という視座から調査分析をした。結果、放送話者を目指す学生を取り巻く就職活動の実態と大学でのキャリア支援の状況を明らかにし、課題の発見と今後の方策を考察した。

キーワード 放送話者, マスコミ就職活動, アナウンススクール, キャリア支援

1. はじめに

マス・コミ業界への就職活動で毎年放送話者（アナウンサー等）を志望する学生は非常に多い。これらの学生の殆どはテレビ局や個人などが主催するアナウンススクールや大学のサークル活動などで就職準備をしている。また、これらとは別に全く個人として準備をする学生も僅かながら存在する。しかし、殆どの学生はこれらのスクールが開催する講座に参加しており、その重要性は高く、内定する可能性が高くなっている。

これらの講座の指導方法やカリキュラムに共通性はあるものの一定の基準はなく、各校などの自主性に委ねられているのが実情であり、その詳細は余り開示されることはない。

また、一部の大学でもこの種の就職講座を開催しているが、これらも上記のスクールと同様に、内容は外部委託されていることから教育内容の詳細は把握されておらず、さらに、各局のインターンシップとアナウンス講習会、就職試験の実態の詳細も企業内情報であることから開示される事は殆どない。

本研究はこれらの状況を学生へのキャリア支援という視座からのアプローチを行い、放送話者を目指す学生のキャリア支援と大学に於ける教育の在り方を考察する事を目標とした。これは発表者がテレビ局員として放送話者の採用に関わり、かつ、大学教員として学生の就職活動の支援に取り組んだ事に起因して研究テーマとして設定したものである。

さらに、今後のこのような高度専門職を目指す学生キャリア支援として何が必要なのか、あるいは必要は無いのか等の解明につなげる。そして、これらの成果を元に次の課題として、これら放送話者を目指す学生に必要な大学での学修とはどのようなものかについての考察につなげ、大学生の就職に向けた自己適性と向かい合い方や職業選択の在り方について、本研究を端緒に解き明かして行きたい。

2. 研究方法

(1) アンケート調査

本研究にあたっては、学生がどのような理由で放送話者を目指しているのか、また、実際にどのような方法や内容の就職活動をしているのか、各種指導に対する評価、就職活動にかかる費用、期待する教育内容などについて調査をした。

対象はキー局と地方局が主催するアナウンススクールとアナウンス講習会、さらに大学に於けるキャリア支援講座の受講生。そして、札幌・東京・名古屋・大阪のアナウンススクールに通う学生と東京・名古屋・大阪の大学で放送系サークルに所属する学生で 315 名からの回答を得た。全 30 項目の選択形式と自由記述形式、個人を特定出来ない匿名方式とした。回収率は 85% であった。アンケート依頼は対象機関や学生の直接訪問と郵送による二方法、回収は直接回収と郵送回収方式である。

(2) ヒアリング調査

調査はアンケート調査と同時平行の形で実施した。学生に対してはキー局、ローカル局のアナウンススクール、また、各地のアナウンススクールと、大学のサークル在籍者である。放送局のアナウンススクールでは主催責任者とインターンシップ、採用試験の担当者にヒアリングを実施した。大学のキャリア支援機関では部署の責任者と講座担当者から話を聞いた。特に大学関係者は講座の在り方や学生に対する指導に対して強い関心を持っており、本研究に対して意義ある意見や話を聞くことができた。

3. 総括

研究目的は放送話者を目指す学生の就職・採用活動の現状を解明し、これに関する大学におけるキャリア支援の課題や今後の取り組みについて明らかにする事である。放送話者の就職に関しては、依然として超難関職種として毎年多くの学生がエントリーをして就職試験に挑戦している。東京キー局では平均1,000倍の競争率になることもあり、その人気は衰える事がない。背景にはフリーアナウンサーの活躍やNHK地域キャスターの採用など就職の窓口の拡大や安易な志望者が多い事が言える。

しかし、学生が本当に自己の適性や能力、可能性と向き合ってこの職業を選択しているかについては、その受験生の多さから疑問が生ずる所以である。

そのような中、放送話者を目指す学生に対しては、各放送局や各スクール、そして、大学のキャリア支援部署やサークルなどが就職支援を担っている。その活動には一定の共通性と独自性の両方が共存している事が調査で明らかとなった。また、受講学生は志望動機と自分が保持しているスキルのレベルからいくつかの大きなグループ分けが出来たものの、明確な線引きや区別には至らなかった。これらの傾向は東京キー局と地方局のアナウンススクールとその受講生、団体や個人が主催するスクール担当者と、その受講生からのヒアリング・アンケート調査の分析によって導かれたものである。

一方、大学に於けるキャリア教育としての放送話者に対する支援活動の内容についても、複数の大学でヒアリング調査を実施して解明した。得られた知見として大学での就職支援活動については、外部委託や連携講座という形で開催され、大学教員や職員が直接講座内容に関わったり、受講生の指導に関与する事はない事実が明らかとなった。

また、学生はこのような特殊技能を必要とする就職活動に於いて、大学での一般的なキャリア教育には余り期待しておらず、カウンセリングを含めての相談や指導をアナウンススクールで受け、かつ期待していることが分かった。各アナウンススクールではこれら個別のニーズに対応し、比較的きめ細やかな指導を前面に押し出す傾向が見て取れた。

一方、放送話者の管理教育に当たる放送局担当者への調査では、学生が大学で幅広く、且つ、深く学ぶ事の重要性を採用のポイントとして上げており、幅広い教養とメディアに働く者としての役割や責務の認識に期待している事が明らかとなった。これはまさに大学で学ぶことの意義であり、高度な専門的職業人のスキルとして大学教育に求められる教育である。

最近ではフリーアナウンサーやタレントの様な女子アナウンサーといった、これまでのアナウンサーのカテゴリーから分派した様な新たなスキルの人材ニーズも起こっており、必ずしも一般教養的なスキルやマス・コミ人としての高い志を必要としない向きもある。しかし、公共的使命を担う最前線の放送話者にとって求められる資質としては必要な事と思えてならない。

その様な意味から放送局の正社員として働く放送話者に求められている大学卒業要件は、この様な変化の激しい時代だからこそ重要なこととなって来るであろうし、デジタル時代や地域情報化時代を迎えた高度情報化社会の担い手として必要とされると考察でき大学に於ける教育と具体的方策の必要性が明らかとなった。

4. 結論・課題

放送話者を目指す学生の就職・採用活動の現状に鑑み、これに関連した大学に於けるキャリア支援の在り方、及び今後の取り組み課題は次の様に総括できる。まず、スクール等に通った学生からのヒアリングや試験の結果を調査するなど、放送話者を目指す学生の実態を明らかにする情報収集。これらの情報や経験知をフィードバックさせる情報の活用。授業に於いて一般教養や専門科目などを通じて業界で働く事の意義を考えさせるなどの基礎教養知識の獲得と職業観の育成。そして、正しく自己と向かい合っ、自分の能力や適性を見極めて就職試験に臨む心構えを形成させる自己分析の実施である。また、大学全体としてキャリア支援の担当者のみならず、教員等との連携を深めつつ指導する体制づくりも課題である事が解明できた。

尚、発表では本研究に関する追加資料を配布するので参考にして頂ければ幸いである。